

## 意欲的に表現する子を目指して ～劇遊びにおける環境構成と援助の工夫～

那覇市立与儀こども園 保育教諭 金城 千春

### 〈研究の概要〉

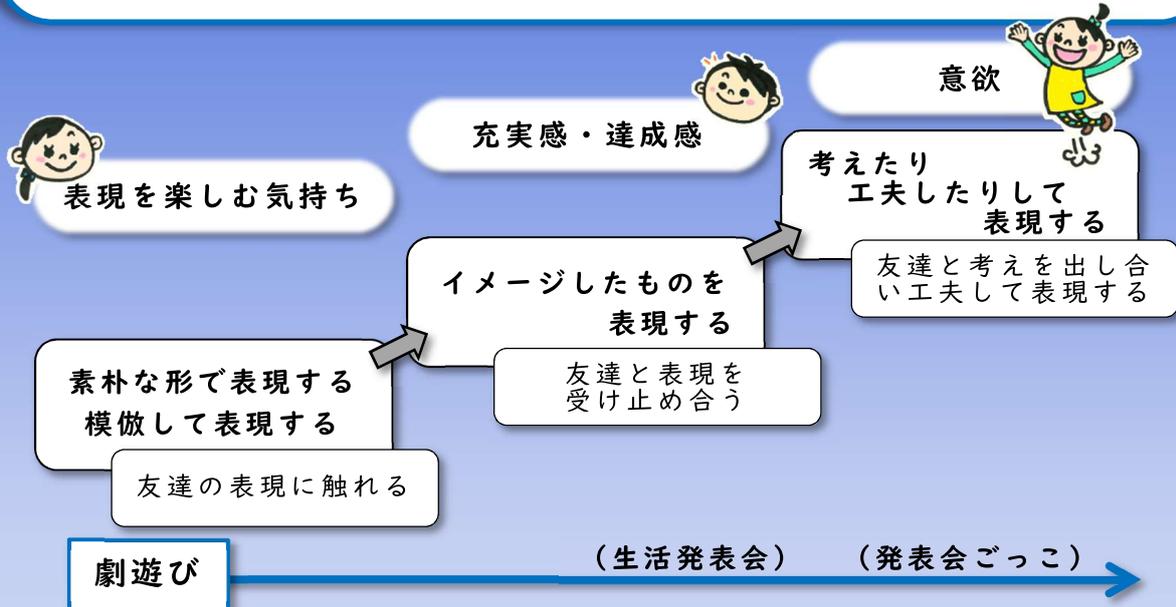
幼児は、自分の素朴な表現が保育教諭や友達などから受け止められる体験の中で、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

本研究では、自分で表現することや友達と表現することを楽しむ「劇遊び」に焦点を当て、取り組むことを構想した。劇遊びを発表会で披露することで生まれる充実感や達成感を生かし、表現する楽しさを味わい、意欲的に表現する姿につながるよう、環境構成と援助の工夫を行った。

劇遊びの取り組みにおいて、「関わりたくなる環境」「イメージしたことを表現したくなる環境」を構成し、個々の表現する姿を肯定的に「受け止める援助」、遊びや友達と「つなぐ援助」をもとに実践した。実践を通して、互いに表現を受け止め合いながら、表現を楽しむ姿が見られたことから、意欲的に表現する姿につながったと考える。

### 〈研究のイメージ〉

## 表現する楽しさを味わい、意欲的に表現する子



### 環境構成の工夫

- ★関わりたくなる環境
- ★イメージしたものを表現したくなる環境

### 援助の工夫

- ◎受け止める援助
- ◎つなぐ援助

## 目次

I	テーマ設定の理由	31
II	研究目標	31
III	研究構想図	32
IV	研究内容	32
	1 幼児期の表現について	
	(1) 幼児期の表現とは	
	(2) 劇遊びについて	
	2 劇遊びにおける環境構成と援助の工夫	
	(1) 意欲的に表現する姿を育むために	
	(2) 遊びと行事について	
V	保育実践	34
	1 保育計画	
	(1) 実態把握	
	(2) 遊び観及び実践計画	
	2 実践事例	
	(1) 実践全体を通じた園児の姿	
	(2) 事例	
	(3) 抽出児の変容	
	3 観察とインタビューの結果	
VI	考察	39
VII	成果と課題	40
	1 成果	
	2 課題	

《主な参考文献》

## 意欲的に表現する子を目指して ～劇遊びにおける環境構成と援助の工夫～

那覇市立与儀こども園 保育教諭 金城 千春

### I テーマ設定の理由

近年、情報化社会に伴いコミュニケーションの仕方が変化し、人間関係に関わる体験不足等が指摘されている。無藤(2018)は、現代における幼児の「表現」の問題として、幼児が表現したことを身近な人に受け止めてもらえない等、表現する力を発揮できない環境に置かれることで、表現する意欲を失っていく状態にあることを指摘している。そのため、幼児期において、表現する意欲を育むための関わりが重要であるといえる。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（以下教育・保育要領）の幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の1つ「豊かな感性と表現」に、園児は「感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる」と示されている。また、保育教諭の役割として、園児の表現や表現しようとする意欲を受け止め、自ら表現することを楽しみ、表現する意欲を十分に発揮できるよう工夫することが求められている(教育・保育要領領域「表現」内容の取扱い)。これらのことから、園児が意欲をもって表現するためには、自分なりにまたは友達と一緒に表現する楽しさを十分に味わうことが大切であり、保育教諭の関わりも重要であると考えられる。

本園の年長児学級共通の実態として、イメージを膨らませて自分なりの表現を楽しむ姿がある一方で、表現することを躊躇する姿や苦手だと話す姿がある。特に本学級では、出来ないからとすぐに諦める姿も多く、意欲的に表現する姿が少ないと感じる。私自身の保育を振り返ると、園児なりの表現を周囲に受け止めてもらえるような援助が不足し、表現することを楽しむための工夫が足りなかったと考える。そこで、園児なりの表現を保育教諭や友達が受け止め、表現する楽しさを十分に味わい、意欲へつながるような工夫をすることで、園児が意欲的に表現するようになる姿を目指したい。

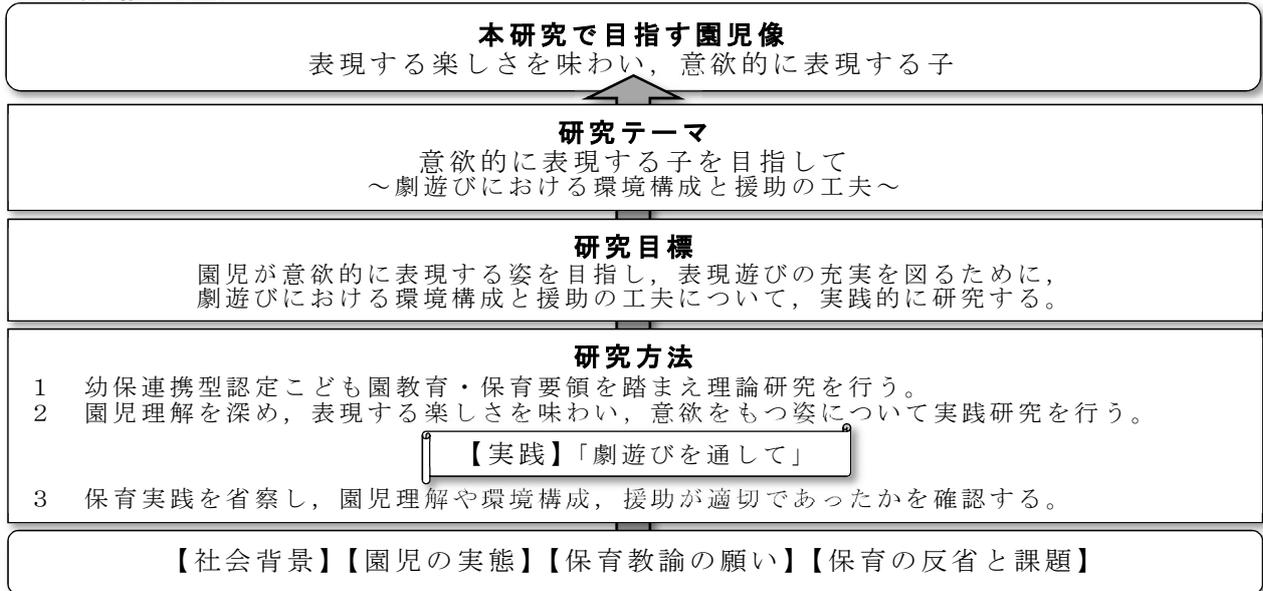
本研究では劇遊びに焦点を当て、実践を行う。劇遊びは、自分で表現したり友達と表現したりしながら、表現を楽しむ活動である。生活発表会で劇遊びを披露し、友達や保護者にその表現を受け止めてもらう経験は、園児が表現する充実感や達成感を味わう姿につながると思われる。そして、発表会で味わった充実感や達成感を生かして、発表会後も遊びが充実するような環境構成と援助を工夫することで、もっと表現したいという意欲が高まるのではないかと考える。

そこで、園児が意欲的に表現するために、劇遊びを楽しみ、生活発表会をやり遂げた充実感や達成感を味わうことで、繰り返し劇遊びを楽しむことができるような環境構成と援助の工夫を研究したいと考え、本テーマを設定した。

### II 研究目標

園児が意欲的に表現する姿を目指し、劇遊びや生活発表会、発表会ごっこの場において、友達と一緒に表現を楽しむことができるような環境構成と援助の工夫について、実践的に研究する。

### III 研究構想図



### IV 研究内容

#### 1 幼児期の表現について

##### (1) 幼児期の表現とは

表現とは、内面で感じたことが外に見える形で現れること(浜口, 2018)であり、乳幼児期の表現は、日常生活経験や遊びにおいて生じるもの(佐野, 2019)である。教育・保育要領解説の「表現」によると、園児は身近な環境に関わり心を動かす中で、心の動きを表現することを通してイメージを豊かにしていく。さらに、動きや音などで表現したり演じて遊んだりしながら、保育教諭や友達に自分の表現を受け止めてもらうことを通して、表現する喜びを味わうようになることが示されている。このことから、幼児の表現には、身近な環境や周りの人との関わりが重要であるといえる。

##### (2) 劇遊びについて

劇遊びとは、ごっこ遊びにストーリー性を加えたものであり、ごっこ遊びとは、乳幼児が日常生活の中で経験したことの蓄積から、つもりになって模倣をし、身近なものを見たと、役割分担するというような象徴的遊びである(保育用語辞典, 2013)。3歳頃になるとごっこ遊びが盛んになり、幼児期後期は役割分担のある複雑なごっこ遊びになる。さらに、劇遊びに発展させていく姿も見られるようになる。

佐野(2019)は、パーテンの遊びの発達において分類される「協同遊び」について

	運動機能	情緒・言葉	表現の過程	
3 ～ 4 歳頃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な運動動作が身に付く。</li> <li>・歌いながら踊るなど、2つの行動を同時に行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何でも自分で行おうとする(手助けを拒むこともある)。</li> <li>・言葉が急激に増加し、盛んに質問する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【関わって表現する】</li> <li>・TVや実演などを見て模倣するようになる。</li> <li>・役柄そのものになりきり、変身することを楽しむ。</li> <li>・ごっこ遊びを楽しむようになる。</li> </ul>	個 特定の友達 いろいろな友達
4 ～ 5 歳頃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人と同じような動作がほぼできる。</li> <li>・体全体を使うような遊びを好む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・想像力が広がり、原体験と物語などの創造世界などを重ね合わせることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【イメージしたことを表現する】</li> <li>・イメージを膨らませて動くことができる。</li> <li>(動物や車など、生活事象などの動き)</li> </ul>	
5 ～ 6 歳頃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全身運動が滑らかにスムーズにできるようになる。</li> <li>・様々な運動に意欲的に挑戦しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間の一としての自覚が生まれる。</li> <li>・予想や見通しを立てる力がつく。</li> <li>・自身の内面への思考が進み、自意識が高まる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【表現することを楽しみ、意欲的に表現する】</li> <li>・思考力や認識力が高まり、創意工夫することができるようになる。</li> <li>・役割分担をする。</li> <li>・ダンスなどの順番を覚え、他者に見せるといった意識も芽生えてくる。</li> </ul>	

<b>《並行遊び》</b> 一見集団で同じ遊びをしているようだが、相互の遊びに関するコミュニケーションがとれていない状態での遊び
<b>《連合遊び》</b> 他児と相互作用はあるが、組織化されず集団としての活動の共有がない遊び
<b>《協同遊び》</b> 集団による遊びのテーマや活動の共有がある遊び

図1 幼児の発達と表現の過程及び遊びの分類について【上野(2020)と佐野(2019)を参考に筆者作成】

て、5～6歳頃にはコミュニケーション的要素が顕著になり、幼児は同調的な動きや集団での表現などに興味を覚え、練習を繰り返しながら集団的表現を完成させるといったことに満足感を覚えるようになって述べている。また、劇遊びは衣装や小道具などの製作、動きと音楽の融合、言語表現や心情的表現など、様々な分野が集まっている総合的な体験が可能となる遊びである(上野, 2020)。本研究において、園児が友達と考えを出し合い試行錯誤をしながら協同して劇遊びを進めることで、表現が広がったり深まったりする体験を重ね、表現する楽しさを味わうようになって考える。上野(2020)と佐野(2019)を参考に、幼児の発達と表現の特徴及び遊びの分類について図1を作成した。本研究においては、協同遊びの特徴を踏まえながら、劇遊びの実践を行っていく。

## 2 劇遊びにおける環境構成と援助の工夫

### (1) 意欲的に表現する姿を育むために

佐野(2019)は、保育者が子どもの素朴な表現に対して受容的であると、子どもは自分が受け入れられているという安心感に支えられて、素朴に楽しんだり夢中になったりと気持ちのままに表現しながら、より複雑な表現に挑戦し、積極的・意欲的に取り組むようになって述べている。西村(1998)によると、保育教諭がうなずいたり返したりする働きかけも受け止める援助に含まれる。図1でも示したように、5歳児の発達の特徴として友達との関わりは大切である。そして、自ら率先して始めたことでなくても、まわりの友達と協同する楽しさを味わうことで主体性が発揮されていくようになる(浜口, 2018)。これらのことから、園児が自分なりの表現を受け止められる経験を重ね、友達と協同して表現する楽しさを味わうことで、意欲的に表現する姿につながるといえる。さらに、園児の実態や遊びの姿に合わせて遊具や用具など見通しをもって準備したり、他の園児の表現に触れられるようにしたりするなどの配慮をすることも必要であり(教育・保育要領領域「表現」内容の取扱い)、園児にとって表現を引き出すような魅力的な環境構成が求められる。

園児が意欲的に表現する過程における環境構成と援助について、教育・保育要領を参考に個々の内面における表現の段階と、友達との関わりから見られる表現の段階に分け、図2にまとめた。本研究では、「関わりたくなる環境」「イメージしたことを表現したくなる環境」を構成し、個々の表現する姿を肯定的に「受け止める援助」、友達や遊びと「つなぐ援助」をもとに意欲的に表現する姿を育むための実践を行う。

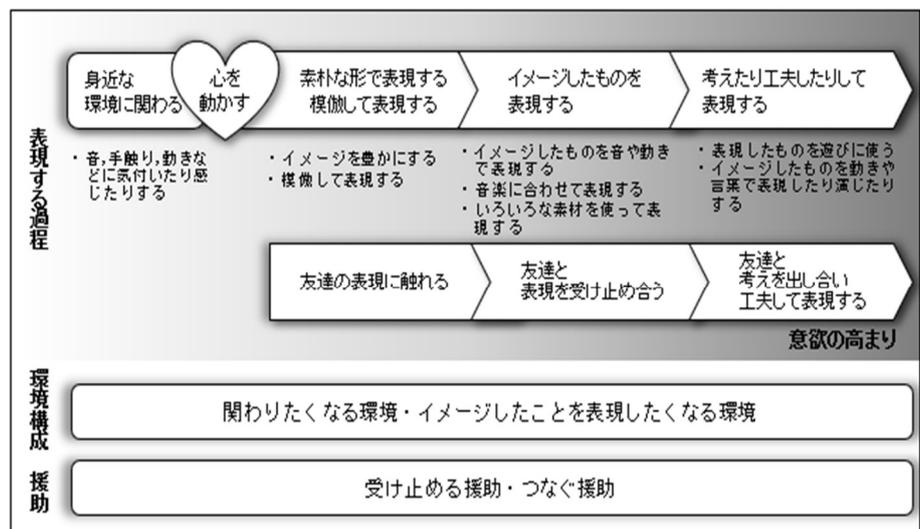


図2 園児の表現する過程における環境構成と援助(筆者作成)

## (2) 遊びと行事について

行事の指導としては、教育・保育要領第1章第2の(3)において、「行事の指導に当たっては、園の生活の自然な流れの中で生活に変化や潤いを与え、園児が主体的に楽しく活動できるようにすること」とあり、解説には、行事が終わった後の園生活をも考慮することが大切であることが記されている。また、田澤(2019)は、「行事のための生活」をするのではなく「生活のための行事」である必要性を説いており、行事前は見せるための練習ではなく、園児が興味をもち主体的に参加できるかということに配慮すべきであるとしている。そして、行事終了後の生活も、行事を通しての経験、体験がじっくりと園児の生活の中に溶け込むような生活の流れが必要であり、その時間が保証されるよう丁寧に関わることの重要性を記している。

これらのことから、本研究における劇遊びは、遊びを中心とした生活の延長線上にあるものとして捉え、日々の遊びを充実させることで劇遊びを十分に楽しめるようにする。そして、発表会後の充実感や達成感を生かすために、環境構成と援助の工夫を行い、意欲的に表現する姿につなげていく。本研究では、「話し合いの場」と「遊びの場」における「意欲的に表現するための環境構成と援助の工夫」について、教育・保育要領解説を参考に作成した表1と図2を基に実践を行う。

表1 意欲的に表現するための環境構成と援助

		話し合いの場	遊びの場
環境構成	関わりたくなる環境	・表情や動き等、互いの表現が見えるよう集まりの場面を工夫することで、自分なりの表現を伝えたり、相手の表現に触れたりすることのできるようにする。	・園児が興味や関心をもち、触れたり試したりと自ら関わるができるような、素材や道具、絵本等を準備する。
	イメージしたことを表現したくなる環境	・写真や掲示物等を活用し、イメージを共有することで、互いの表現を見せ合ったり、遊びや活動に見通しや期待をもったりできるようにする。	・イメージしたことを、音や身振り、製作等で表現したくなるような、素材や道具を豊富に準備する。 ・イメージしたことを表現したり、友達の表現を見たり一緒に表現したりすることを楽しめるようなコーナー作りをする。
援助	受け止める援助	①思いや考えを受け止める ・園児の表現したい思いや考えを、問いかけたり引き出したりして受け止める。 ・園児が互いの思いや考えを受け止め、認め合えるようにする。 ②表現する姿を受け止める ・園児の表現する姿を引き出し捉え、受け止める。 ・園児が互いの表現を受け止め、認め合えるようにする。	①思いや考えを受け止める ・園児の表現したい思いや考えを受け止める。 ②表現する姿を受け止める ・園児の表現する姿や表現しようとする姿を捉え、受け止める。 ・園児の表現する姿や気持ちに共感し、一緒に表現し受け止める。
	つなぐ援助	①思いや考え、表現をつなぐ ・園児が思いや考え、表現を見せ合ったり言葉で伝えたりし、互いに受け止め合い考えを出し合えるようにする。 ②遊びや活動につなぐ ・園児が遊びに見通しをもったり振り返ったりする時間を設け、意欲や期待がもてるようにする。	①思いや考え、表現をつなぐ ・園児が互いの思いや考え、表現に触れられるようにする。 ・園児がイメージを共有したり考えを出し合ったりして表現できるようにする。 ②遊びをつなぐ ・園児が興味や関心をもち、表現したくなるよう、園児と遊びをつなげたり、園児同士の遊びをつなげたりする。

## V 保育実践

### 1 保育計画

#### (1) 実態把握

11月前半、園児の表現遊びの姿について実態把握を行い、個々の表現遊びの様子や友達との関わりについて、図3にまとめた。園児数16名のうち、3名の園児には表現

する姿が見られず，表現遊びをうまく楽しめていないことが伺えた。また，友達との関わりが少なく個々で表現する園児が7名いたことから，学級の半数の園児が友達と関わりながら表現遊びを楽しむ姿が少ないことがわかった。このことから，表現する姿が見られない3名(ABC)と，友達と関わって表現する経験が不足している園児(DEFGHIJ)については，思いや表現を「受け止める援助」，友達と「つなぐ援助」を重点的に行う。

		素朴な形で表現する 模倣して表現する	イメージしたものを表現する	考えたり工夫したりして表現する
↑ 友達との関わり	表現する姿が見られる	M (1名)	N (1名)	
			K (1名)	L (1名)
		DE (2名)	FGH (3名)	I J (2名)
表現する姿が見られない		ABC (3名)		
		→ 表現の過程		

\*ABC…11月前半の園児の姿  
\*支援を要する園児と欠席が続いている園児2名は分析から除いた

図3 表現遊びにおける園児の姿

## (2) 遊び観及び実践計画

劇遊びでは，園児が興味や関心をもって取り組み，試行錯誤を繰り返し友達と協同して進める中で，表現が広がったり深まったりする体験を重ねながら，表現することを楽しむようになる。そして，生活発表会で劇遊びを披露し，友達や保護者にその表現を受け止めてもらう経験は，表現する充実感や達成感を味わう姿につながると思われる。さらに，発表会で味わった充実感や達成感を生かして，発表会後も遊びが充実するよう発表会ごっこを取り入れることで，表現する意欲を高めていくことができるのではないかと考える。そこで，劇遊びを通して表現遊びの充実を図るための環境構成と援助を工夫することで，園児が表現する楽しさを味わい，意欲をもつ姿が引き出されると考え，実践を計画していく。

実践計画		
実践	◇ねらい・内容	
11月 (第2～4週) 12月 (第1～2週)	○導入 ○ストーリー作り ○ストーリーに合わせて振りを考える ○ダンスの振りを考える ○役決め ○衣装，小道具作り	◇発表会や劇遊びへ向けて期待をもつ。 ◇劇遊びについて話し合ったり表現し合ったりする。 ◇友達と目的を共有し，協力して表現する楽しさを味わう。 ・劇遊びのストーリーをつくり内容を考える。 ・自分なりの表現を受け止めてもらったり，自分で表現して楽しんだりする。 ・好きな遊びの時間に，自分達で劇遊びを楽しんだり，劇遊びに含まれているダンスや歌を練習したりする。
12月 (第3週) 【生活発表会】	○劇遊びの披露	◇自分なりの目標をもって表現し，やり遂げる喜びを感じる。 ◇友達と目的を共有し，協力して取り組むことで充実感や達成感を味わう。 ・劇遊びを楽しみ，目標をもって取り組んだり，友達と一緒に協力したり助け合ったりする。 ・やり遂げた充実感や達成感を味わう。
12月 (第4週)	○発表会ごっこ	◇生活発表会をやり遂げた充実感を味わう。 ◇友達と一緒に発表会ごっこを楽しむ。 ・発表会を振り返り，自分が頑張ったことや印象に残ったこと等を伝え合い，友達と共有する。 ・発表会での経験を思い出しながら，繰り返し表現したり，役を交代して表現したりしながら，友達と一緒に様々な表現を楽しむ。 ・年長児合同の発表会ごっこに参加する。

## 2 実践事例

劇遊びの導入では，話し合いの場でストーリー作りを行った。さらに，遊びの場で，役になって遊んだり，必要なものを製作したりできるようにした。また，話し合いの場では，感じたことや気づいたことを振り返ることで，思いや考えを共有しながら，劇遊びを進めていった。



学級活動『年長児合同で発表会ごっこをしよう』

事例3

12月第4週(発表会ごっこ) 友達と一緒に  
繰り返し表現する姿



・自分達の劇遊びを繰り返した。友達が楽しんでいる姿が見られた。友達がわかってきたと、動きを工夫して伝えた。友達が真似して楽しんでいた。隣の学級の劇遊びを真似して楽しんでいた。自分の衣装を隣の学級の友達に紹介する姿や、衣装を選び組み合わせる姿、「大切に使うね」と小道具の使い方を教える姿が見られた。



・隣の学級の劇遊びに参加し、楽しむ姿が見られた。活動前後の話し合いでは、考えを相手へ伝えたり表現する姿が増えた。



・隣の学級の劇遊びを真似して楽しんでいた。自分の衣装を隣の学級の友達に紹介する姿や、衣装を選び組み合わせる姿、「大切に使うね」と小道具の使い方を教える姿が見られた。



友達と一緒に新しい劇遊びを考えて  
取り組む姿



・午後の遊びでも、自分達で劇遊びを計画し、役を決めて小道具作りを始めていた。



関わりたくなる環境構成

☆学級間で連携を図り、互いの劇遊びを一緒に楽しむ場を設けた。

【遊】

イメージしたことを表現したくなる環境構成

☆写真や小道具等を用いて、振り返りを行った。【話】

受け止める援助

◎自分の役を繰り返し楽しむ姿、隣の学級の表現に触れ、見たり一緒に表現したりする姿を受け止めた。

【遊①②】

◎試行錯誤をして作った衣装や小道具を大切にすることを共有し、園児同士がその気持ちを共有できるようにした。【話①】

つなぐ援助

◎隣の学級の劇遊びや衣装等、様々な表現に触れ、一緒に表現できるようにした。【遊①②】

◎個々の考えを全体に伝えられるよう、言葉を添える等配慮し、共有しながら遊びや活動が広がるようにした。【話①②】

保育教諭の見取り

日々の遊びや学級全体での経験を劇遊びに取り入れ、表現を受け止める援助を重ね表現を引き出したことで、園児が虫になりきったり思い思いに表現したりする等、イメージしたものを表現する姿が見られた。また、個々の表現を話し合いの場で紹介したり、遊びの場で仲介したりとつなぐ援助を行ったことで、園児が友達と表現を受け止め合う姿が見られた。さらに、素材や道具を豊富に揃え、一緒に表現し受け止める援助を行ったことで、園児が必要なものを考えて劇遊びに取り入れる等、考えたり工夫したりして表現する姿につながった。そして、役やグルーブ(少人数)に分かれて取り組む時間を設けて援助を行ったことで、学級全体の場ではうまく自分の表現が出せなかった園児も、友達と考えを出し合い工夫して表現する姿が見られた。生活発表会前も、舞台上で取り組むことで披露することを意識して話し合う様子があり、友達と考えを出し合い工夫して表現する姿が見られた。生活発表会で保護者に劇遊びを披露し受け止められたことで、やり遂げた充実感や達成感を味わう姿につながったと考える。その充実感や達成感を生かして、年長児合同の発表会ごっこを設定し、互いの劇遊びを楽しむための衣装や小道具を準備し援助を行ったことで、友達と一緒に繰り返し表現する姿につながり、表現する楽しさを味わい、新たな劇遊びを考えて取り組む姿になったと捉える。

(2) 事例

事例1 「友達と表現を受け止め合う姿」 11月第4週

自分で表現することを楽しむが、友達と一緒に表現する姿があまり見られないH児は、劇遊びの話し合いで、ダンスを取り入れることを提案していた。そこで、園児の遊びが盛り上がる姿を予想して、リクエのストのあった曲と衣装を準備した。早速、H児を含めて園児数名が衣装を着て曲に合わせて振り考を仕草をしていたので、このまま取り組むが進むと思われた。しかし、ダンス作りはなかなか進まず、ダンスグループで集まる機会を設けると、自分の考えを一方的に保育教諭に伝えるH児や他児の姿があり、自分達で話し合うことが難しい様子が見られた。

- 保育教諭 「広い舞台で踊ってみる？」【イ:遊】
- H児と他児 「楽しそう！」(数名が加わり、舞台で踊り始めた)
- H児 「これはどう？」(保育教諭に表現を提案していた)
- 保育教諭 「いいね！」【受:遊①②】
- 保育教諭 「Hさんが考えた振り付け、楽しいよ」(一緒に踊りながら他児に伝えた)【受:遊②・つ:遊②】
- 他児 「本当だ！楽しい！」(真似をして一緒に踊り始めた)
- 他児 「見て！こんな振りはどう？」(振り付けを考えながら踊りはじめた)
- 他児 「それもいいね！」

園児が互いに提案し始めたため、一歩引いて見守っていると、園児同士の会話は減ったが視線を合わせながら踊るようになり、次第に全員の動きが一つになっていった。

保育教諭の見取り

保育教諭がダンス作りの場として、広さや特別感のある舞台を使用したことやボンボン等の小道具を取り入れたことで【イ:遊】、イメージしたことを表現する姿につながったと捉える。また、園児の表現を真似て一緒に踊り【受:遊①②】、他児へ言葉や表現でつないだことで【つ:話①・遊①】、園児の表現を引き出され、友達と表現を受け止め合う姿につながったと考える。また、最後は、みんなで出し合った表現を繰り返し踊ることで、踊りの楽しさが共有されていった。このことから、友達と表現を受け止め合う姿につながったと考える。

事例2・3 「考えたり工夫したりして表現する姿」

事例2 12月第2週～第3週

劇遊びのストーリーに、子ども役の園児が虫役の園児を捕まえる場面があったため、子ども役のI児は新聞紙やビニールを使って虫網を作り始めていた。保育教諭が他の園児も同じ場で作れるよう工夫すると、互いに真似をしたり教え合ったりしながら作っていた。虫網が出来上がると、劇遊びにおいて、子ども役の園児が役になりきって虫を捕まえたり、虫役の園児も捕まらないよう逃げたり隠れたりしながら、表現が盛り上がる様子が見られた。その後、I児ら子ども役の園児は、虫かごや虫のエサを作って劇遊びに取り入れ、壊れても補強しながら繰り返し大切に使用していた。本番が近付いたある日、子ども役の園児が小道具を持たずに劇遊びの準備をしていたため、「虫網は持っていないの？」と声をかけると、「使わなくても大丈夫」という返答があった。その後は本番も含めて、小道具を使わずに劇遊びをする様子が見られた。



### 3 観察とインタビューの結果

観察結果より、実践前と実践における園児の姿を比較すると、14名中11名の園児に変容が見られた(図4)。表現する姿が見られなかった3名については、実践を通して、個々で表現する姿や友達と一緒に表現する姿が見られるようになった。G児とH児に関しては、友達と「つなぐ援助」をしたことで、互いに表現を出し合いながら工夫して楽しむ姿が見られた。図中で変容が見られなかったE児、F児、J児については、大きな変容ではないが、それぞれの姿で表現を楽しむ様子が見られた。

また実践後、個別にインタビューを行うと、全員が発表会と発表会ごっこのどちらも「楽しかった」と答えていた。そこで、「楽しかった」と感じた内容や理由について尋ねた(表2)。発表会では「表現そのもの(ダンス、エイサー、劇の場面等)が楽しかった」と回答した園児が最も多く57%であった。発表会ごっこでは、「友達と一緒に表現することが楽しかった」と回答した園児が64%と最も多かった。

さらに、次回取り組みたい内容について聞くと、「現在の劇遊びを繰り返し取り組みたい」「現在の劇遊びを発展させたい」「新しい劇遊びを考えて取り組みたい」と、3つの意見に分かれて回答していた(表3)。「現在の劇遊びを発展させて取り組みたい」に分類した園児の回答については、現在の劇遊びに他の役を入れ、ダンスやエイサー等の振り付けをパワーアップさせて取り組みたいという内容だった。また、「新しい劇遊びを考えて取り組みたい」に分類した園児の回答については、既に数名で新しい劇遊びを構想し、役が決まり小道具作りが始まっているという内容もあった。

表2 「楽しかった」内容についてのインタビュー結果

内容	発表会		発表会ごっこ	
	人数	割合	人数	割合
表現そのものが楽しかった	8	57%	4	29%
友達と一緒に表現することが楽しかった	2	14%	9	64%
披露することが楽しかった	4	29%	1	7%
合計	14	100%	14	100%

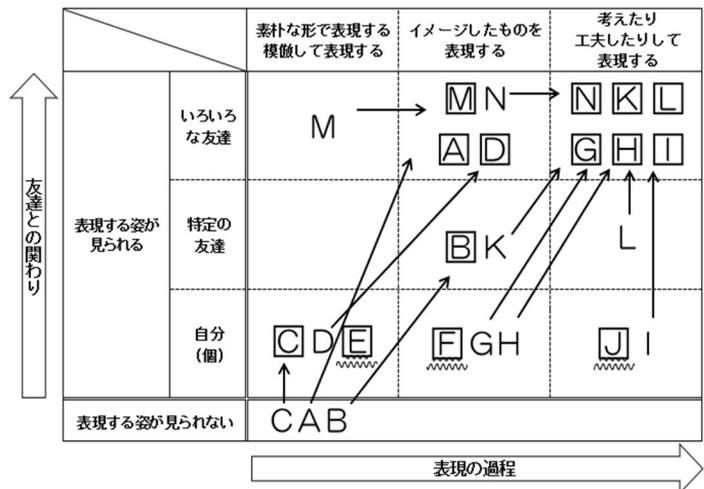
表3 次回取り組みたい内容についてのインタビュー結果

内容	人数	割合
現在の劇遊びを繰り返し取り組みたい	5	36%
現在の劇遊びを発展させて取り組みたい	4	29%
新しい劇遊びを考えて取り組みたい	4	29%
表現以外の取り組みに言及	1	6%
合計	14	100%

## VI 考察

本研究では、劇遊びを通して園児が表現する楽しさを味わい、意欲的に表現する姿を目指し、遊びの場と話し合いの場において、「関わりたくなる環境」と「イメージしたことを表現したくなる環境」を構成し、個々の表現する姿を肯定的に「受け止める援助」、友達や表現と「つなぐ援助」の工夫を行い、実践に取り組んだ。

環境構成について、「関わりたくなる環境」として、園児が興味や関心をもっている虫との経験を題材として取り入れたことで、園児がストーリーのイメージをもちやすくなり、



\*ABC…11月前半の園児の姿(遊びの姿)、ABC…12月後半の園児の姿(発表会ごっこの姿)  
 \* A (破線)…図中では変容が見られなかった園児  
 \* 支援を要する園児と欠席が続いている園児2名は分析から除いた

図4 表現遊びにおける園児の姿

友達とストーリーを共有しながら劇遊びを展開しようとする姿につながった。「イメージしたことを表現したくなる環境」として、小道具作りができるような素材や場所の工夫、実際に動いて表現できるような舞台を含めたコーナー作りをすることで、劇遊びに必要な小道具を考えて作ったり役になりきって表現したりするようになり、園児がイメージしたものを表現する姿や考えたり工夫したりして表現する姿につながった。

援助の工夫について、「受け止める援助」として、個々の思いや考えを聞き受け止めることで、安心感をもって動きや言葉で表現するようになり、園児なりに表現しようとする姿や表現することを楽しむ姿につながった。特に、実践前は表現する姿が見られなかった3名の園児は、自分の表現を受け止めてもらう安心感から、自ら表現する意欲につながったと捉える。実践全体を通して、「受け止める援助」は意欲を育むための重要な基盤となる援助であることを再認識した。「つなぐ援助」として、遊びの場において、園児が友達と一緒に取り組めるような場を設定することで、他児の表現に刺激を受けて模倣したり褒め合ったりする様子が見られるようになり、園児が互いの表現を受け止めながら表現する姿につながった。また、園児が自分の表現を相手に伝えられるよう、保育教諭が言葉を添えたり表現を引き出したりしたことで、園児同士で互いに表現を組み合わせる様子が見られ、友達と考えを出し合い工夫して表現する姿につながった。話し合いの場において、学級全体で振り返り、個々の考えや表現を共有することで、やりたいことを伝え合ったり遊びに見通しをもって準備したりするようになり、次の遊びに期待や意欲をもつ姿へとつながった。さらに、生活発表会を通してやり遂げた充実感や達成感を学級全体で共有したことで、発表会ごっこにおいて繰り返し表現したり新しい劇遊びを考えたりする姿が見られた。

これらのことから、園児がイメージしたことを表現したり友達と一緒に表現したりしながら、表現する楽しさを味わい、意欲的に表現する姿になったと考える。

## Ⅶ 成果と課題

### 1 成果

- (1) 劇遊びにおいて、関わりたくなる環境とイメージしたことを表現したくなる環境を構成し、受け止める援助とつなぐ援助の工夫をしたことにより、イメージしたことを表現したり友達と一緒に表現したりするようになり、表現する楽しさを味わう姿につながった。
- (2) 生活発表会后に、園児の充実感や達成感を生かした環境構成と援助の工夫をすることで、繰り返し表現したり新しい劇遊びを考えて取り組んだりするようになり、意欲的に表現する姿につながった。

### 2 課題

学級活動の場以外の遊びの場においても、園児が劇遊びの経験を基に、さらに意欲的に表現遊びを展開していけるような、環境構成と援助の工夫をしていく必要がある。

#### 《主な参考文献》

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』	内閣府・文部科学省・厚生労働省	フレーベル館	2019
『新訂 事例で学ぶ保育内容 領域表現』	無藤隆、浜口順子	萌文書林	2018
『表現指導演法』	上野奈初美	萌文書林	2020
『乳幼児のための保育内容 表現』	佐野美奈	ナカニシヤ出版	2019
『表現の指導演法』	田澤里喜	玉川大学出版部	2019